

論文入賞報告

全国社会福祉事業団協議会では、毎年全国の事業団職員から「実践報告・実務研究論文」を募集しています。

今年度、当法人から4編の論文を応募し、2編が入選(優良賞・佳作)という審査結果をいただきました。

支援の現場では、上手くいくこと、いかないことも多く、毎日がその連続です。

どの論文も事業所を利用する方がより豊かな暮らしが送れるよう、私どもが日々研鑽して取り組んだ個別支援や地域連携についてまとめたものです。

応募論文は以下のとおりです。当法人のホームページに応募した論文を掲載しておりますので、ぜひ、ご覧ください。



優良賞

強度行動障害に対する支援について

かつらぎ リーダー 今道裕太郎

佳作

こども発達支援センターmumにおける地域と連携した取り組み
～地域共生社会の実現に向けて～

地域支援課 主査 副島美晴

■重度知的障害者の視覚障害に着目した支援

～濃密なアセスメントから閃く支援～

すくよか 主任 奥平和暉、瀧村友雄、
支援員 浅井達哉、中道こはる、
看護師 青谷悦子、
病棟長 中川志織

■就労継続支援B型だからこそ出来る『就労支援』の無限の可能性

重度知的障がいがあるAさんのQuality of Life(生活の質)の向上を目指して
地域生活総合支援センターあい サービス管理責任者 徳井聡史

実践発表会



令和6年11月4日、秋晴れの日に実践発表会を大阪私学会館で行いました。

この発表会は、各事業所で取り組んだ実践や研究活動等の成果を法人内で共有することにより、改めて職員同士で学びあい、より良いサービス提供に繋げることを目的としています。

17事業所が「強度行動障がいに対する支援」「意思決定支援」「地域移行」などをテーマとして、サービス等利用計画や個別支援計画に基づいた実践及び研究を発表しました。

今回は新たな取組みとして、プレゼン力向上研修を開催し、表情や姿勢、情報のまとめ方などを改めて学びました。どの発表者もより効果的に取組みが伝わるよう意識した発表となっており、実践発表会として大きくグレードアップしました。

次年度以降もより良いサービス提供に繋げていけるよう実施します。

地域貢献、敷地活用PT報告

令和5年度より始まった第1期中長期計画のスローガンである「今以上“To Be a Better Corporation”(よりよい法人になるために)」の実現のため、こんごう福祉センター内ではイベントの開催等の様々な取組みをすすめています。

取り組むうえで大切にしていることは、障がいの有無に関わらず、人と人が繋がりを広げていく機会を作ることです。

7月には、ディースパレット株式会社の方々とこんごう福祉センターの利用者と職員が交流を図り、かなびのさと前にあるウェルフェアパークの活用に向けた“しばふプロジェクト”を開催しました。11月には、かつらぎが参画している東条交流部会の地域交流イベント「東条フェスティバル2024」を近隣住民や関係機関の方々とともに開催しました。

いずれも多くの方がこんごう福祉センターに集いにぎわう機会となりました。

今後も“今以上”を加速させ、こんごう福祉センターの敷地が、人と人の繋がりがや支え合いを感じられる場所となるような取組みを企画実施していきます。

ご期待ください。



新年のごあいさつ

皆さま、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年を振り返りますと、新年早々、石川県能登半島を震源地とする大きな地震がありました。その傷が癒える間もなく9月には同じ能登半島に集中豪雨が襲い、二重の大災害に見舞われることとなりました。この度の災害に対し、衷心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

近年は、自然災害や新型コロナウイルスの蔓延等、様々なリスクが我々の想定を超える形で顕在化しております。今後は、令和6年4月に策定した業務継続計画(BCP)に基づき、避難訓練や研修等、法人全体で日々災害への備えを進めていく必要があると考えております。

また、これからの日本は、我々が経験したことのない超少子高齢化社会に進んでいきます。人口減少による働き手不足や物価高など、我々を取り巻く環境は日々厳しさを増しており、日本のすべての業界で人材獲得競争が激化しています。人材の確保は我々が事業を継続していくために欠かせないものであり、待ったなしの重要課題であります。そういった人材確保の問題解決を図るため、外部パートナーのご協力を得て、法人のブランド戦略を策定いたしました。

ブランドスローガンである「FUN365」を旗頭にして、ブランド戦略のゴールである「日本一、スタッフも、ご利用者も、地域の人たちと一緒にワクワクしながらいろんな挑戦をしている社会福祉法人」をめざしていきたいと考えております。

「FUN365」は365日障がい者福祉が楽しいという意味だけでなく、福祉(Fukushi)の「喜び」を、もっとユニバーサル(Universal)に、つまり「当たり前」にするネットワーク(Network)を地域につくっていく、という思いも込めています。「FUN365」を利用者、家族の方、地域の方、職員全員が共有できる合言葉にしていきます。

私自身が何よりも大切にしていきたいのは現場力の向上です。日々現場で利用者の方に向き合っている職員、それを支えている事務職員が自分たちの仕事に誇りを持って働ける法人にしていきたいと考えています。それが、支援の向上のための最大の取組みだと考えております。

次に地域社会から必要とされる法人運営を目指してまいります。当法人は大阪府内で17事業所を展開しております。各事業所が地域に根ざした運営を行い、時代のニーズに即した福祉サービスを提供できるよう、これからも尽力してまいります。

私たちの福祉サービスを選び利用していただいているすべての利用者の皆様・ご家族に対して、心より感謝申し上げます。今年も引き続きよろしくお願いいたします。

今後も、利用者の皆様のニーズを真摯に受け止め、質の高い福祉サービスを提供し、地域に貢献することはもとより、法人運営においても安定した経営が行えるよう役職員一同、努力してまいりたいと考えております。

本年も、昨年に引き続き、利用者の方々、ご家族の方々、関係各位に於かれましては、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

理事長 山田 忠男



社会福祉法人

大阪府障害者福祉事業団

SFJ事業団 〒584-0054 大阪府富田林市大字甘南備216番地

[法人事務局]

TEL 0721-34-2180

FAX 0721-34-2121

ホームページアドレス

<https://www.sfj-osaka.net>



「ブランディングプロジェクト」 進捗状況のご報告

ブランディングの背景

福祉業界を取り巻く環境は時代とともに変わり、福祉事業を行う運営団体の多様化や事業所の増加、少子高齢化などさまざまな要因で人材不足の問題に直面しており、当法人もその例外ではありません。令和5年3月に策定された「第1期事業団中長期計画」においても、「人材確保」は法人の最重要課題として掲げられており、その取組みを強化することとなっています。この課題にアプローチするため、令和6年4月、「ブランディングプロジェクト」を立ち上げました。

日々の支援の中においては、利用者の喜びや幸せに触れ、それを一緒に分かち合える瞬間があります。

時には、笑顔や感謝の言葉に励まされることもあります。プロジェクトの実施にあたっては、職員が日々感じるそうした「障がい者福祉」の面白さや楽しさ、醍醐味を抽出して整理し、クリエイティブな力でより効果的に世の中の皆さんに伝えられるよう、外部パートナーを招聘することとしました。

本プロジェクトは、当法人の知名度をあげることを目的とする、いわゆるPR活動とは一線を画すものです。法人の強みや価値などを明確にし、それを法人内外に発信し、浸透させるとともに、障がい者福祉の魅力を地域の人たちに伝えるソーシャルアクションにも取り組んでいくものです。

さらなる企業価値向上に向け、コーポレートブランドを刷新



プロジェクト始動から約半年をかけ、職員やOB、内定者、大阪芸術大学の有志の学生といった多くの関係者に参画いただきながら、インタビュー、ワークショップ、座談会などを多数実施し、「魅力や強み・提供価値の整理」を行ってきました。これを踏まえ、昨年9月、今後も利用者や家族の期待を超える支援とサービスを提供し、より多くの方に障がい者福祉の価値を届けることができるよう、意思決定の指針となる「ブランドスローガン」「ブランドステートメント」「ブランドロゴ」などのコーポレートブランドを刷新することを盛り込んだ新しいブランド戦略を策定しました。

ブランドスローガン

『障がい者福祉をもっと、ちいきの当たり前に。FUN365(Fukushi Universal Network)』

365日、障がい者福祉の仕事には「FUN」がある。その「FUN」を地域の人たちに伝えていくことで障がいのある人もない人も共に暮らせるやさしい地域に変えていくという正義を込めた言葉。「FUN」は、福祉(Fukushi)の「喜び」を、もっとユニバーサル(Universal)に、つまり「当たり前」にするネットワーク(Network)の意味もかけています。障がい者福祉の仕事の喜びと正義をシンプルな言葉にすることで職員みんなが共有しやすい合言葉になるでしょう。

ブランドステートメント

私たちの仕事は、365日、障がいのある方たちの日々に向き合う仕事です。幼児から高齢者まで様々な生きづらさを背負って生きるみなさんとの日々は、様々な気づきや学び、そして喜びに満ちたもの。私たちは、そんな障がい者福祉がもたらしてくれる喜びを、地域の皆さんとも分かち合いたい。例えば施設に来ていただき、ケアを体験してもらったり、地域を盛り上げる活動を、共に企画し実践したり。一緒に笑ったり、ほっこりしたりすることで、障がいのある人もない人も、みんなが普通に支え合えるような地域にしていきたいのです。そんな思いを私たちはブランドスローガンに込めました。

FUN365(Fukushi Universal Network)

私たちは、福祉(Fukushi)の「ヨロコビ」を、もっとユニバーサル(Universal)に、つまり「当たり前」にしていくネットワーク(Network)を地域につくっていくことを日々、目指しています。障がいのある人もない人も、日々笑い合える喜びに満ちた毎日のために。私たちの次なる挑戦にご期待ください。

社会福祉法人 大阪府障害者福祉事業団

ブランドロゴ



地域に広がり、繋がっていく。障がい者福祉がもたらしてくれる多種多様な「FUN」

新ブランドを体現する広報アクションについて(第1弾)



新ブランド戦略及び広報戦略に基づき、当法人は今後も様々なアクションを行ってまいります。

その第1弾として、障がい者支援員がパーソナリティーを務めるインターネット配信のコミュニティラジオ「FUN365ラジオ」を開局する予定です。既に、広報チームを編成し、開局に向けて動き出しており、ラジオ企画開発ワークショップでは、大阪北部・中部・南部の3チームに分かれてディレクターやパーソナリティー、ミキサーなどの役割を決めました。今後、ラジオ局で勤務されている現役の構成作家やミキサーなどをお招きしてレクチャーを受け、準備が整い次第、開局する予定です。